

# 第62期 報告書

**ROHM**  
SEMICONDUCTOR

2019年4月1日から2020年3月31日まで

**ローム株式会社**  
証券コード 6963



**半導体の技術で  
夢を、未来をカタチに。**

**ローム株式会社**

**ロームは、半導体の技術で 夢を、未来をカタチにします。**

限りなく未来に続く社会に向けて、ロームはあらゆる可能性を追求していきます。技術革新や文化を含めた生活様式の変化をとらえ、お客さまに高品質の「良い商品」を提案していきます。

国内外のロームグループ社員が、「夢」「未来」の実現と社会への貢献を通じて、成長する会社であり続けることをめざしています。



代表取締役社長 松本 功

## 新社長ご挨拶

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2020年5月11日付けで、代表取締役社長に就任いたしました松本功でございます。ロームは創業以来「品質を第一とする」との企業目的のもと、常にチャレンジ精神を持って難題に取り組み、成長を続けてまいりました。自動運転の実現、AIの進化など、社会におけるエレクトロニクスの位置付けが大きく変わる中で、今後もチャレンジ精神をもって、改革を続けていきます。

折しも、新型コロナウイルスの影響で、世界経済全体が混乱の渦の中にあります。次なる成長に向けて、お客様の求める商品の開発とモノづくりで顧客満足度を高めること、新型コロナウイルスという難局を乗り越えること、この二つの大きな課題に、不退転の決意で取り組んでまいります。

## 業績の概要

当期における世界経済は、米中貿易摩擦や中国の景気減速などにより低迷が続いたことに加えて、年明け以降は新型コロナウイルス感染症蔓延が世界各地の生産・個人消費などに対して甚大な影響を与えはじめ、総じて厳しい一年となりました。

エレクトロニクス業界におきましては、自動車関連市場では、「安全」、「環境」などに対するニーズの高まりからエレクトロニクス製品の実装率の向上が見られましたが、自動車販売台数の低迷が続く、全体としては厳しい状況となりました。産業機器関連市場では、工作機械や産業機械などの市況が悪化し、民生機器関連市場でも需要が低迷しました。

## 方針・事業戦略

ロームグループは、革新的な製品開発や質の高いモノづくりを進めることが、お客様満足度を向上させ、社会への貢献につながると考えております。また、事業活動によって生み出される付加価値が、競争力を強化する事業投資のための内部留保と、株主・従業員・地域社会などのステークホルダーの皆様に適切に配分、または還元されることが必要と考えています。

## 中長期的な経営戦略

### 1. 注力市場

#### ① 自動車・産業機器関連市場

電子化と省エネルギー化の流れの中で成長を続ける自動車関連市場、産業機器関連市場は、高品質、高信頼性、安定供給が求められる市場です。ロームグループの高品質、高信頼製品の開発、製造技術を活かして、市場を開拓してまいります。

#### ② 海外市場

欧米に加えて中国や新興国などの海外市場の急速な拡大やグローバル化にともない、海外のお客様のニーズに幅広く対応できる開発、販売体制作りを進め、海外市場における売上及びシェア拡大を推進してまいります。

### 2. 注力商品

#### ① パワー

省エネルギー化のニーズがますます高まる中で、従来のシリコン

半導体と比較して大幅な低損失と小型化が実現できるSiCデバイスの開発とラインアップの強化を進めており、自動車関連市場や産業機器関連市場を中心に、従来製品である高性能な電源ICやドライバIC、IGBT、パワー MOSFETなどを組み合わせ、お客様に最適なソリューションを提案してまいります。

#### ② アナログ

高機能電源ICやモータードライバIC、LEDドライバICなど、高度なアナログソリューションを展開してまいります。また、主要なプロセッサメーカーとの連携によるリファレンスビジネスを拡大してまいります。

#### ③ スタンダードプロダクト

小信号半導体や抗抵器、汎用ICにつきましては、成長する自動車関連市場や産業機器関連市場向けを軸に、高品質・高信頼な製品を安定して供給いたします。

## 3. ものづくりの強化

中長期的に安定した成長を続けるため、グローバルに安定した製品供給ができる生産体制の強化を進めてまいります。また、あらゆるムダの削減や効率化を進め、リードタイムの短縮と品質のさらなる向上により競争力強化に努めてまいります。

## 業績予想について

2020年初頭から新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延、企業の生産活動・物流面に大きな影響を与え、終息を見通せない状況となっています。ロームグループにおきましても、世界各地域の規制を受けて、企業活動に制約を受けております。こうした状況の中、現時点において当該感染症の今後の影響を見通すことが困難であるため、次期の業績予想につきましては未定とし、今後の予想が可能になった段階で改めて公表させていただきます。

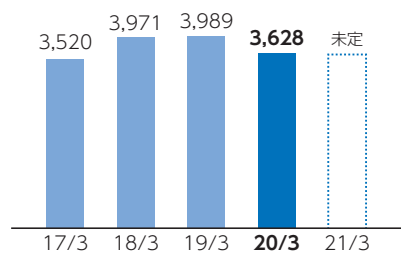
株主の皆様には、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020年6月

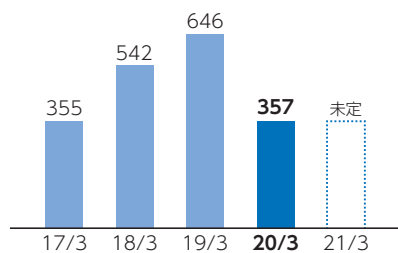
代表取締役社長 松本 功

# 財務ハイライト

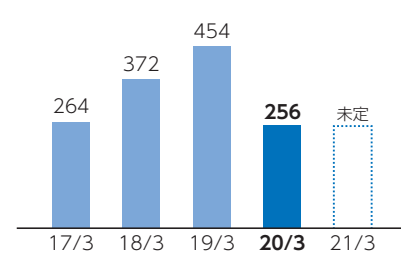
売上高 (単位: 億円)



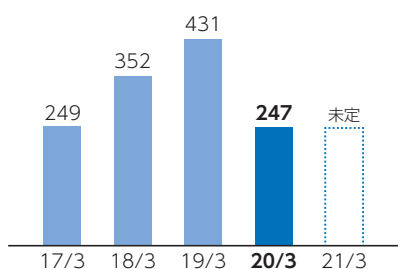
経常利益 (単位: 億円)



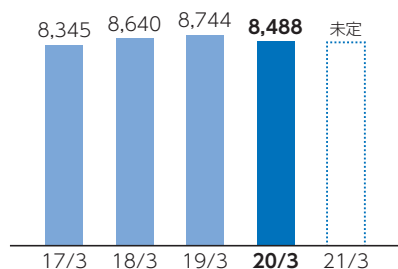
親会社株主に帰属する  
当期純利益 (単位: 億円)



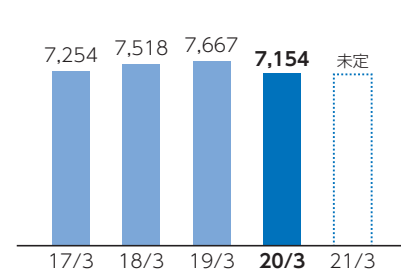
1株当たり当期純利益 (単位: 円)



総資産 (単位: 億円)



純資産 (単位: 億円)



※計画値につきましては、現段階で合理的な業績予想の算定を行うことが困難なことから未定とし、記載しておりません。今後、合理的な予想が可能となった時点で速やかに公表いたします。

## 連結財務諸表 (要約)

連結貸借対照表

(単位: 百万円)

科 目	当 期 (2020年3月31日)	前 期 (2019年3月31日)
流動資産	517,888	511,002
固定資産	330,984	363,425
資産合計	848,873	874,427
流動負債	62,367	76,174
固定負債	71,026	31,499
純資産合計	715,479	766,754
負債純資産合計	848,873	874,427

連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	当 期 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	前 期 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	362,885	398,989
売上原価	251,125	254,727
売上総利益	111,759	144,262
販売費及び一般管理費	82,269	88,352
営業利益	29,489	55,909
営業外収益	6,750	10,043
営業外費用	465	1,264
経常利益	35,774	64,689
特別利益	5,714	360
特別損失	3,470	4,126
税金等調整前当期純利益	38,018	60,923
法人税等合計	12,362	15,454
親会社株主に帰属する当期純利益	25,632	45,441

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

科 目	当 期 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	前 期 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	79,130	65,990
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,676	△ 53,997
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 17,075	△ 30,647
現金及び現金同等物の期末残高	275,539	228,065



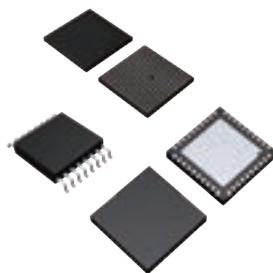
# セグメント別の概況

## LSI

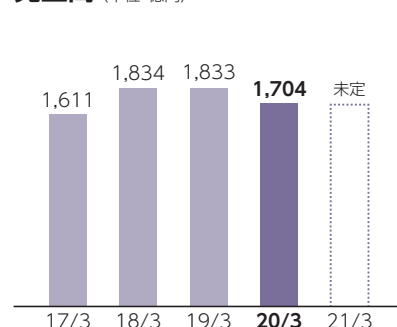
主な製品 ●アナログ ●ロジック ●メモリ ●MEMS

- 売上高 1,704億3千2百万円 (前年同期比 7.0%減)
- セグメント利益 125億7千8百万円 (前年同期比 21.3%減)

自動車関連市場につきましては、電気自動車など向けの絶縁ゲートドライバICや、カーボディ、ADAS分野向けの各種電源ICなどの新規採用が広がりましたが、インフォテインメント向けの売上は減少しました。産業機器関連市場につきましては、市場低迷の影響を受けました。民生機器関連市場につきましても、スマートフォンやパーソナルコンピュータ、AV機器向けなど、総じて厳しい状況となりました。



売上高 (単位:億円)

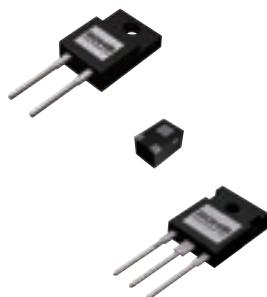


## 半導体素子

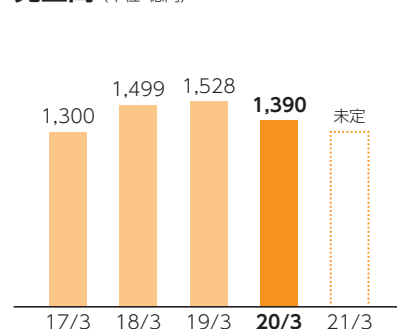
主な製品 ●トランジスタ ●ダイオード ●発光ダイオード ●半導体レーザー

- 売上高 1,390億3千8百万円 (前年同期比 9.0%減)
- セグメント利益 104億7百万円 (前年同期比 65.4%減)

トランジスタにつきましては自動車のインフォテインメント向けや産業機器関連市場向けを中心に厳しい状況が続きました。ダイオードにつきましても、インフォテインメント向けを中心に売上が減少しました。パワーデバイス部門につきましては、IGBTは売上を伸ばしましたが、SiCについては市況悪化の影響を受けました。また、発光ダイオード、半導体レーザーにつきましても、民生機器関連市場向けを中心に売上が減少しました。



売上高 (単位:億円)

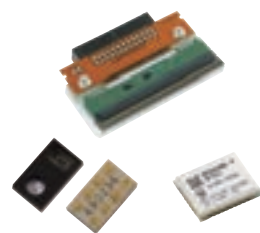


## モジュール

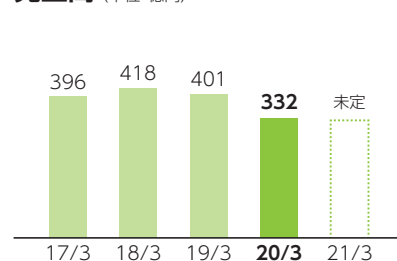
主な製品 ●プリントヘッド ●オプティカル・モジュール ●パワーモジュール

- 売上高 332億7千5百万円 (前年同期比 17.1%減)
- セグメント利益 34億9千1百万円 (前年同期比 41.0%減)

プリントヘッドにつきましては、決済端末向けなどで売上が減少しました。オプティカル・モジュールにつきましては、スマートフォン向けのセンサモジュールなどは売上が減少しましたが、自動車関連市場向けではリアランプ用LEDモジュールの採用機種が増加し、売上を伸ばしました。



売上高 (単位:億円)

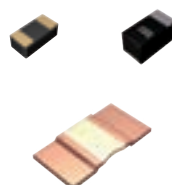


## その他

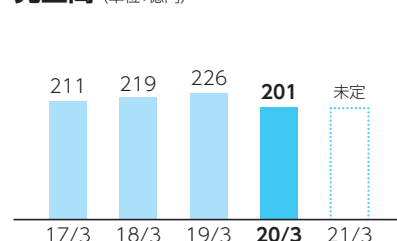
主な製品 ●抵抗器 ●タンタルコンデンサ

- 売上高 201億3千9百万円 (前年同期比 11.1%減)
- セグメント利益 19億4千8百万円 (前年同期比 52.4%減)

抵抗器につきましては、自動車関連市場向けはカーボディ向けで売上を伸ばしましたが、インフォテインメント向けを中心に売上は減少しました。また、民生機器関連市場向けについても売上が減少しました。タンタルコンデンサにつきましては、パーソナルコンピュータ向けなどで売上が減少しました。



売上高 (単位:億円)

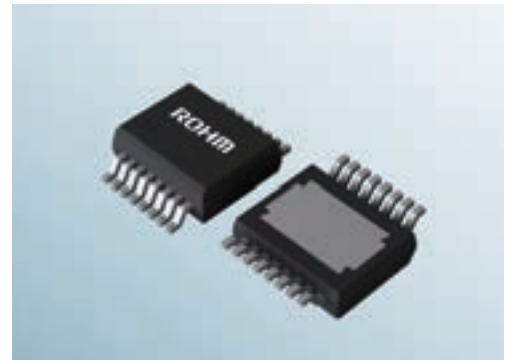


製品

## 単独での車載のシステム保護を可能にした 半導体ヒューズ「BV2Hx045EFU-C」を開発

自動車分野では、技術革新に伴う電子化が進む一方で、より安全な車載システムの構築が求められています。そのため、電子回路を異常時の過電流から繰り返し保護できる半導体ヒューズの採用が進んでいます。これまでは、システム始動時の電流を半導体ヒューズで対応し、それ以外の定常電流には過電流検出ICなどで保護していました。

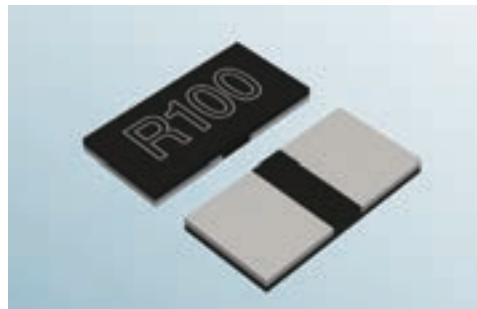
今回、ロームが開発した半導体ヒューズは、2つの電流に対応できるため、単独でのシステム保護を実現し、高信頼性車載システムの構築と小型化に貢献します。



BV2Hx045EFU-C

製品

## 高電力化かつ小型化を実現した 5.0×2.5mm サイズ シェント抵抗器「GMR50」を開発 高機能化する自動車や産業機器などの省スペース化、信頼性向上に貢献



GMR50

自動車や産業機器などの市場では、信頼性を維持しながら、限られたスペースの中で高効率、高機能なアプリケーションを構成する必要があります。そのために、部品の高密度実装も進み、搭載部品にも、高電力化かつ小型化の要求が高まっています。

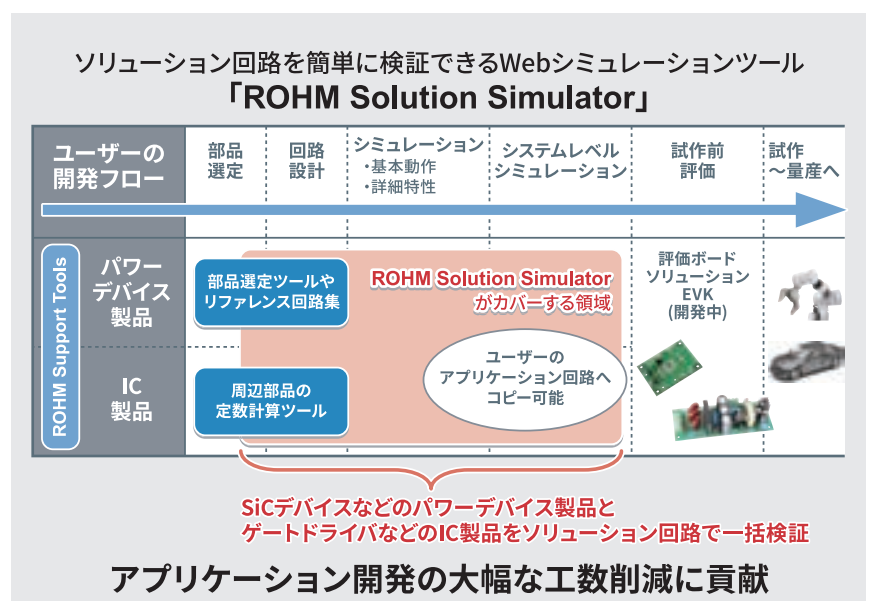
今回開発したシェント抵抗器は、5.0×2.5mm サイズで定格電力4Wを実現しており、過電流負荷に対する耐久性も高いため、厳しい温度保証が求められる車載や産業機器の小型化、高電力化要求に応えるとともに信頼性向上にも貢献します。今後、ロームの各種パワーデバイスなどと組み合わせたソリューションをさらに強化していきます。

製品

## SiC パワーデバイスと駆動ICを一括検証できる 「ROHM Solution Simulator」を開発 電気自動車などの回路設計業務の大幅効率化を実現！

自動車や産業機器のお客様では、電子回路基板の開発業務が増加しており、回路設計業務の効率改善が求められています。ロームが今回開発した「ROHM Solution Simulator」はロームの公式Webサイト上で動作する電子回路シミュレーションツールで、SiC パワーデバイスや駆動IC、電源ICを使用するアプリケーション回路を、実環境に近い環境で素早く高精度に検証できるため、電子回路設計者の開発工数を大幅に削減可能です。

ロームは、様々な省エネルギー機器に使用されるパワーデバイスや駆動ICの開発実績があり、アプリケーションに対するサポートについても、豊富な実績を有しています。今後も、さらなる顧客サポートの強化に努めています。



## ESG ロームは音楽文化の普及と発展を目指しています 若手音楽家を育成する「ローム ミュージック セミナー」



ロームが支援する公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションは、若手音楽家の育成を目的として、2019年からの新企画「ローム ミュージック セミナー」を開催しました。このセミナーは世界を舞台に活躍する音楽家を目指す方を対象にしたもので、講師は国際コンクールでの優勝者など国内外で活躍する「ローム ミュージック フレンズ」が務めます。今年はチェリストの宮田大氏が務め、豊富な国際経験を

基にしたレッスンが行われました。

このセミナーの成果発表として、昨年8月に「ローム ミュージック セミナー コンサート」がロームシアター京都で開催され、選抜された5名の受講生と講師の宮田大氏がソロ演奏とアンサンブル演奏を行いました。レッスンの聴講、コンサートの来場者を合わせると延べ782名の音楽ファンや若手音楽家をご来場になり、音楽を楽しんでいただきました。



レッスン風景

撮影：佐々木 卓男



受講生によるアンサンブル演奏

撮影：佐々木 卓男

## ESG 子どもたちに地球を守る大切さを 知ってもらうために



ロームは、2010年より京都商工会議所が実施する「小学生への環境学習事業」に参画し、京都市内の小学生を対象とした環境学習を行っています。これまでに38校、1,698名の生徒たちが本授業を受講しました。ここでは、自社製品を組み込んだ電子ブロックを活用した実験を通して、子どもたちに温暖化から地球を守ることの大切さを伝えています。



## ESG 地域と連携した 植林活動の実施



Rohm Electronics Dalian社（中国・大連市）は、毎年植林活動に参加しています。本活動は、自然環境と共生した豊かな生活を推進するとともに、コミュニティと連携をとりながら地域に根差した社会貢献活動を推進することを目的としています。今後も良き企業市民として、地域に根差した社会貢献活動の取組みを推進してまいります。



## ESG がん患者を支援する チャリティマラソンに参加



SiCrystal社（ドイツ・ニュルンベルグ市）は、2019年7月にドイツ・ニュルンベルグで開催されたチャリティマラソン「B2RUN (Business to Run)」に参加しました。本イベントの参加費は、白血病などの血液がん患者を支援するNPO法人「Knochenmarkspenderdatei」に基金として寄付されました。



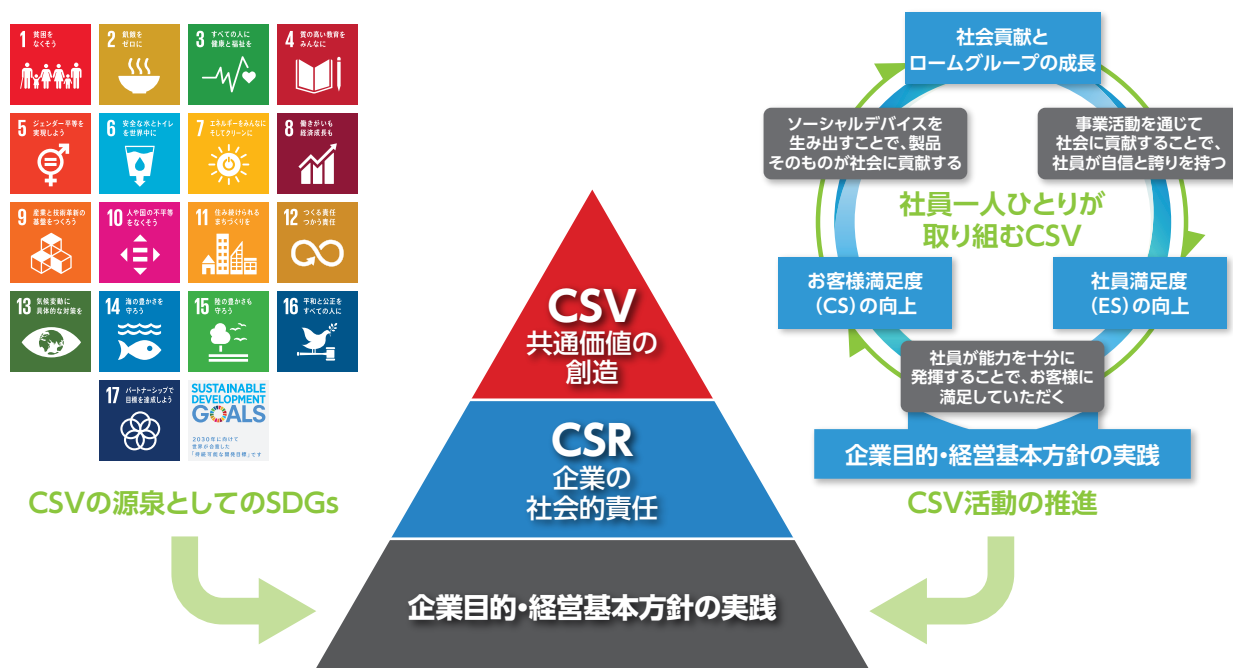
## ロームのCSR・CSVについて

ロームは、「品質を第一」に、ステークホルダーの皆様の期待に応えられる製品を提供し、文化の進歩向上、社会の発展に貢献することを「企業目的」に掲げています。また、ここで言う「品質」を、ロームでは「製品品質」と企業運営を行う上での「経営品質」と捉え、創業時より事業活動を行ってきました。これら両方の品質を満たすことは、企業目的の達成、ひいてはCSR、CSVにつながると考えています。

昨今の気候変動や自然災害、人権問題といった社会課題が深刻化する中、2015年にSDGs (Sustainable Development Goals) が採択されました。SDGsはステークホルダーが抱える課題・ニーズでもあり、これらに応えることは社会課題の

解決とともに、企業価値も創造するCSVにもつながります。ロームでは、このSDGs達成に向けた製品開発・技術開発に取り組んでいます。

CSVの実現は、ステークホルダーの皆様の満足度の向上、さらには社員の自信と誇りにつながり、新たな挑戦を生み出す原動力となります(下図参照)。また、CSVは、一人の開発者、研究者だけで生み出せるものではありません。全従業員が自身の業務を通じて、更なる付加価値向上に取り組むことが重要です。ロームではこの活動を「CSV活動」と位置づけ、一人ひとりが主役となって社会課題の解決に向けて業務に取り組むことを推進しています。



## 事業活動を通じた社会課題の解決

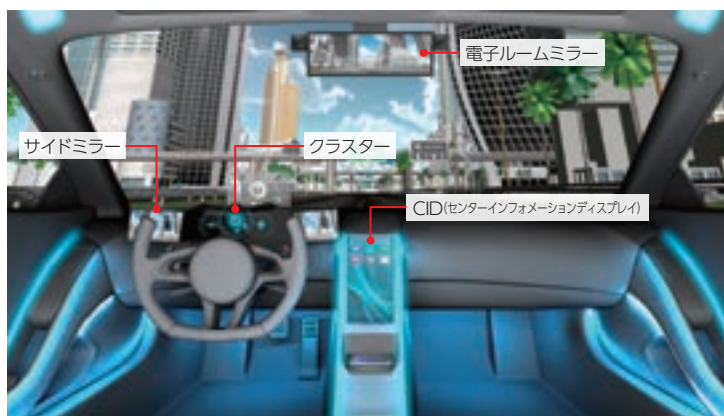
### 交通事故のない社会の実現に向けた製品開発

日本だけでなく世界で高齢化が急速に進行している中、今後は、増加の一途をたどる高齢ドライバーに対して、車を生活から遠ざけるのではなく、安心して運転ができる車を供給することが求められます。

乗員への通知を、液晶表示を用いて行うことが増えている中、ロームでは、液晶の表示に関わるICの状態を相互監視することで、表示の状況を判断できる「液晶用チップセット」を開発しました。

また、ADAS (先端運転支援システム) や自動運転に必要な、極めて高い安全性が必要とされる車載アプリケーションの電源システム向けに、自己診断機能内蔵の「電源監視IC」も開発しています。

これらの製品により、交通事故の防止や安心・安全な運転につなげることができます。





## 社名について

半導体メーカー・ローム (ROHM) の社名由来は創業当時の生産品目である抵抗器 (Resistor) の頭文字「R」に抵抗値の単位Ω [ohm] を組み合わせたものです。「R」は信頼性 (Reliability) にも通じており、品質を第一とするロームの企業姿勢を示しています。

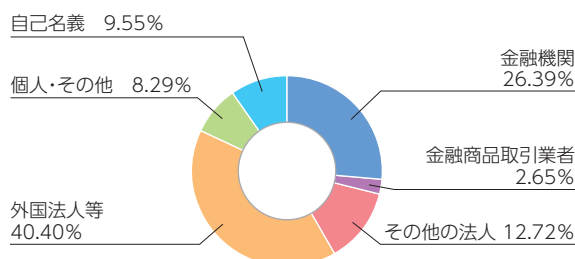
## ■ 会社概要

社名	ローム株式会社 (ROHM COMPANY LIMITED)
本社	〒615-8585 京都市右京区西院溝崎町21 TEL (075) 311-2121
設立年月日	1958年9月17日
資本金	86,969百万円
従業員数	3,215名 (ロームグループ22,191名)

## ■ 株式の状況

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式総数	110,000,000株 (自己株式10,504,865株を含む)
株主数	26,013名

## ■ 所有者別株式分布状況



## ■ 大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション	10,385	10.43
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	8,375	8.41
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	6,190	6.22
株式会社京都銀行	2,606	2.62
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口9)	2,009	2.01
GIC PRIVATE LIMITED - C	1,896	1.90
JP MORGAN CHASE BANK 385151	1,815	1.82
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口5)	1,809	1.81
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	1,539	1.54
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	1,431	1.43

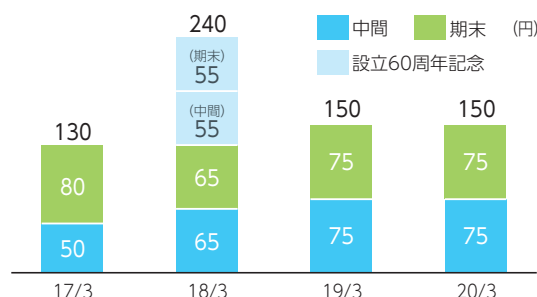
(注) 1. 持株数は千株未満を、持株比率は小数点第2位未満を、それぞれ切り捨てて表示しております。  
2. 当社の自己株式 (10,504千株) は、上表から除外しております。  
3. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式を除いた数に基づき、算出しております。  
4. 当事業年度において、公益財団法人ロームミュージックファンデーションが新たに主要株主となりました。

## ■ 取締役 (2020年6月26日現在)

代表取締役社長	松本 功
取締役	東 克己
取締役	山崎 雅彦
取締役	上原 邦生
取締役	立石 哲夫
取締役	伊野 和英
社外取締役	西岡 幸一
社外取締役 (常勤監査等委員)	仁井 裕幸
社外取締役 (監査等委員)	千森 秀郎
社外取締役 (監査等委員)	宮林 利朗
社外取締役 (監査等委員)	田中 久美子

(注) 社外取締役 西岡幸一、仁井裕幸、千森秀郎、宮林利朗、田中久美子の各氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

## ■ 配当金の推移



## ■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
株主確定の基準日	定時株主総会、期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 TEL (0120) 094-777 (通話料無料)
金融商品取引所	東京証券取引所
公告方法	以下の当社ホームページに掲載しております。 <a href="https://www.rohm.co.jp">https://www.rohm.co.jp</a> (ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします)

ローム ホームページ  
<https://www.rohm.co.jp>

投資家情報  
<https://www.rohm.co.jp/investor-relations>

